

2023年12月21日

報道機関各社御中

本日の米海軍横須賀基地からのPFAS排出問題の国と横須賀市長会談に対するコメント

原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会共同代表弁護士 呉東 正彦

本日防衛省担当者が横須賀市長と会談し、

- 1、防衛省担当者が米海軍は10月21日に粒状活性炭フィルターの稼働を停止した。
その情報提供があった日は回答できないとの旨を述べ、
- 2、横須賀市長がサンプリング結果の公表と提供水域間際の海水のサンプリング調査を求めたとのことである。

しかしフィルター稼働前には明らかに、排水処理場への入口でも出口でも、PFASが日本の基準を大幅に超えていたのだから、国の説明はごまかしであり、現在は日本の基準を大幅に超えるPFAS排水が、フィルターを経ることなく、2月間海に垂れ流されていたこととなり、市民の健康安全をなしがしろにした完全な違法、無法状態となっている。

従って、横須賀市長は、まずもって市民の健康と安全を守るため、

- 1、上記米海軍によるサンプリング結果の速やかな公表に加えて、
- 2、再度米海軍と直接交渉して、PFASが日本の基準を大幅に超えるおそれの大きい処理場排水の停止を求め、
- 3、環境補足協定による横須賀基地に立ち入り調査を実現させ、排水処理場への入口、出口での直接のサンプリング調査を自ら実施すべきことを強く求める。